



国際

沿岸レポート

## スペインの土木工学賞

一般財団法人沿岸技術研究センター  
研究主幹 岸弘之

沿岸技術研究センターの高橋重雄理事長が、スペインのホセ・エントレカナレス・イバラ財団から土木工学賞を受賞しました。海岸工学と防災の分野において卓越した研究成果をうみ出すとともに、東日本大震災では被害調査をいち早く実施し、早期の復旧・復興に貢献したと評価されました。3月13日にマドリード工科大学で授賞式が行われ、フェリペ6世スペイン王国国王陛下から表彰楯が授与されました。写真1は授賞式の様子であり、写真2の中央の長身の男性が、フェリペ6世国王陛下です。授賞式にはスペインの公共事業大臣、水上正史駐スペイン日本大使も出席されました。授賞式の様子はホセ・エントレカナレス・イバラ財団のホームページ (<http://www.fentrecanalesibarra.es>) でご覧いただけます。

土木工学賞は、マドリード工科大学と同財団が主体となり、土木工学の発展に貢献した専門家に贈られる賞です。2006年に創設され、3年ごとに1人を表彰しています。マドリード工科大学は、1802年に公共事業省の技術学校として設立された歴史ある大学で、港湾や海岸工学の創始者のひとりであるイリバ



写真1



写真2

レン教授など著名な研究者を輩出しています。同財団はホセ・エントレカナレス・イバラ氏の遺族により設立された非営利団体であり、エントレカナレス氏は同工科大学で28年にわたり教鞭を執った学者であり、スペインの大手建設会社・エネルギー会社のアクシオナの前身、エントレカナレス・イ・タボラの創設者の一人です。

高橋理事長は、運輸省港湾技術研究所（現国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所）で長年、海洋工学、沿岸防災の研究に取り組み、2011年より理事長に就任、2016年より沿岸技術研究センター勤務。土木学会の研究業績賞など多くの賞を受賞し、2012年には米国土木学会より国際海岸工学賞が贈られています。

スペインは伝統的に海の工学が盛んで、日本の技術にも大きな興味を持っています。今回の受賞は港湾空港技術研究所の研究が認められたと同時に、日本の港湾工学や海岸工学の技術の高さが評価されたと考えられます。東日本大震災の津波で甚大な被害を受けた日本への励ましもあると思われます。この表彰は、港湾空港技術研究所の理事長時代の2015年に決定しており、高橋理事長は「震災からの復旧・復興に努力していた研究所を代表して受賞した」と考えているとのこと。

授賞式の後、マドリード工科大学で『津波減災・縮災－東日本大震災の教訓』をテーマに記念講演もありました。350人ほどいた聴衆の関心は高く、沿岸の防災はスペインでも重要なテーマです。2004年のスマトラ島沖地震で大津波が発生し、ワーストケースに備えることの大切さを教訓として世界の人々は学びました。しかし、日本では、ワーストケースに備える制度(体制)が出来たのは、東日本大震災の厳しい経験の後でした。世界では、議論はされていますが、制度の確立に至っている国は、残念ながらまだありません。日本のみならず、世界の技術者にとって東日本大震災の教訓を生かし、減災・縮災にむかって、制度の改善を含めて努力することは大切なことだと思います。